【高砂、貝塚前、駅前町　住民説明会】

宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策説明会　議事メモ

日　時：平成27年10月7日（水）19：00～20：20

場　所：宿毛市福祉センター

出席者：高砂地区住民　28名

○県宿毛事務所より説明（別添資料）

【資料１】宿毛市市街地における河川・海岸堤防の地震津波対策（L2津波シミュレーション含む）

【資料２】松田川堤防の地震・津波対策

【資料３】海岸堤防の地震・津波対策

○質疑応答

Ｑ1：液状化について、高砂地区は昔埋め立てて造成された土地ですが、この地域の液状化についてはどのようにみているのですか。また、高砂中心部の液状化はかなりの確率で起こると考えていたほうがよいのですか。

県 ：地質調査の結果では、液状化が想定されています。特に、15ｍ程度下にある火山灰層が大きく、松田川河口付近では、厚さが６ｍ程度となっています。液状化に対しては、鋼矢板を打ち込むなどの対策工を検討しています。

本事業では、堤防に対しては補強できますが、民地に対しての補強及び液状化対策はできません。

Ｑ2：堤防ラインについて、排水ポンプ場の背後にある既存の堤防を嵩上げせずに、前に堤防ラインをもってきたのはなぜですか。

県 ：地震が発生し、津波が引いた後、内陸地に溜まった海水を排水するため、ポンプ場の機能は欠かせません。よって、ポンプ場前（海側）に堤防を設け、満潮時の海水の浸入を防ぐことで、ポンプ場の機能を早期回復させ、早期復旧に寄与したいと考えています。

Ｑ3：新田緑地の背後にある既存の堤防を嵩上げするとの計画になっていますが、新田緑地では日頃から地域住民がｸﾞﾗﾝﾄﾞｺﾞﾙﾌ等をしています。また年何回か大会が開かれ各地から100名以上の人が集まることもあります。もし地震が発生し、逃げようとした時に壁状の堤防があると利用者はパニックになります。また、避難に時間もかかります。よって、グランドの前（海側）に堤防ラインを変更できませんか？

県 ：検討します。

Ｑ4：新田緑地のトイレ等において、現在若者のたまり場となっており、夜間（深夜）には花火をしたりしています。新田緑地の背後にある既存の堤防を嵩上げされると、より閉鎖状態になり若者がたまりやすくなり、防犯上よろしくありません。なんとか海側に堤防をつくれないですか。

県 ：前問も含め、堤防ラインについて検討します。

Ｑ5：検討した結果は報告してくれますか。

県 ：区長さんを通じ、報告させていただきます。

Ｑ6：堤防を嵩上げし、海岸をぐるっと囲んだときに、津波が引いたあとの排水はどの程度できるのですか。

県 ：排水については、長期浸水対策検討会において検討されており、中村河川国道事務所と大洲河川国道事務所が保有する排水ポンプ車９台全てを宿毛に配備してもらえれば、２週間程度で内陸部の排水はできると想定しています。補足ですが、堤防の対策など何もしなければ、４２日程度かかることとなります。

Ｑ7：液状化で地盤沈下した場所に、津波の水が排水できずに残っているとなると、避難場所から自宅に戻るにも、最短でも２週間かかるとなれば、最寄りの山に避難した住民は、山で２週間過ごさなくてはいけないことになります。なんとかならないですか。

県 ：地域で防災組織が組織されていると思いますので、避難や避難後の一時避難生活については、お住まいの地域の防災組織を一度確認してください。

Ｑ8：既存の排水場を強化する方針はできないのですか。

県：宿毛市の管轄なので県としてはお答えできません。

Ｑ9：排水については、満潮時以外で既存の陸こうを開けるなどすれば、陸こうが排水の有効な利用方法になると思いますが、どうですか。

県：陸こうは基本的に閉鎖をしたいですが、どうしても閉鎖できない個所において、潮が引いた時に海岸まで人が行けて、陸こうが動けば排水できると思います。